

### 令和3年度エイズ予防財団助成事業実績報告書

実施団体	IFMSA-Japan SCORA(国際医学生連盟 日本 性と生殖・AIDSに関する委員会)
実施事業名	STI Prevention Project
団体代表者	代表 田羅理美(令和4年度)/ 高橋卓也(令和3年度) SCORA責任者 辻川真緒(令和4年度)/中谷和徹(令和3年度)
事業の目的	医療系学生に対して、HIV/AIDSをはじめとする性感染症を正しく、偏見なく認識することができるような機会を提供する。性感染症の感染予防方法や治療、性感染症を取り巻く社会的背景や性感染症患者の抱える問題なども、自分達自身が性感染症の主要な罹患年代である若年層の一員として、「じぶんごと」として考えてもらう。社会へ向けて性感染症の予防啓発活動を行うとともに、自身でも予防活動を実践する。
事業の達成度	医療系学生に対して、HIV/AIDSをはじめとする性感染症を正しく、偏見なく認識することができるような機会を提供する。性感染症の感染予防方法や治療、性感染症を取り巻く社会的背景や性感染症患者の抱える問題なども、自分達自身が性感染症の主要な罹患年代である若年層の一員として、「じぶんごと」として考えてもらう。社会へ向けて性感染症の予防啓発活動を行うとともに、自身でも予防活動を実践する。 事業の達成度:今年度は昨年度に続き、COVID-19によって、すべての活動がZoomやSNSを用いた非対面型の活動となりました。対面で行っていた体験型のワークショップの実施が難しい中、スタッフが性感染症を主体的に考えることができるよう、工夫をして活動を行いました。具体的には、ワークショップにディベートを取り入れたり、ディスカッションのテーマを自分の友人やパートナーを想像し考える形にしたりしました。また、過去に対面で行っていたコンドームを付ける練習をするワークショップは、コンドームとコンドーム装着練習模型を郵送し、Zoomで実施しました。今年度は工夫の結果、イベント作成スタッフ数は累計53人となり、1つのイベントにおける最多参加者数は40人となりました。また、コンドームを付ける練習をするワークショップでのコンドームと模型の郵送は9人のスタッフから希望をいただきました。SNSの発信においては、World AIDS Dayに合わせて、SCORA-Japan公式Instagramでの投稿をしました。UNAIDSのWorld AIDS Day 2022の目標に合わせた形で投稿を行い、スタッフからのいいねや閲覧を多くいただきました。非SCORAスタッフのいいね数は多くはありませんでしたが、作成スタッフの非SCORAスタッフの友人からのいいねを多くいただきました。社会に向けて、HIV/AIDSの問題を発信するためには非SCORAスタッフの投稿リーチ数を多く獲得する必要があります。今年度の反省点となりますが、スタッフの友人から少しずつHIV/AIDSの情報を発信していくことは大事なことだと考えています。

対象となった人数(実数)	①第1回Skypeer「子宮頸がんってなあに？」40名 ②STIP×HLP「子宮頸がんワクチンについて学ぶ会」(IFMSA-Japan SCOPH(公衆衛生に関する委員会) Healthy Lifestyle Projectとのコラボイベント) 35名 ③SCORAngelsの集い1日目「HIV/AIDS」36名 ④World AIDS Day SCORADIO 15名 ⑤World AIDS Day SNS 作成者3名 いいね数のべ148(2022年4月10日時点) ⑥SCORA総会1日目 性感染症のまとめ/コンドームを付ける練習 27名
	①第1回Skypeer「子宮頸がんってなあに？」(6月) 子宮頸がんはどのような病気であるか、検査方法やワクチンについてのレクチャーを行いました。ちょうど子宮頸がんワクチン接種を推奨されていなかった世帯の参加者が多く、これからの接種を検討していた参加者もいたため、イベント中は、多くの参加者がチャットで反応をして盛り上がりました。チャットでは、知らなかったことを知れたというような率直な感想をくれたり、副反応のニュースについて知っていることを共有してくれたり、大学の授業で子宮頸がんについて習ったことを教えてくれたりするなどしていました。また、子宮頸がん検査やワクチンの体験談を共有してくれる人もいました。 ②STIP×HLP「子宮頸がんワクチンについて学ぶ会」(IFMSA-Japan SCOPH(公衆衛生に関する委員会) Healthy Lifestyle Projectとのコラボイベント)(7月) 子宮頸がんワクチンに関するレクチャーと「国は子宮頸がんワクチンの接種を義務付けるべきであるか否か」という議題でのディベートを行いました。ディベートで、SCORA以外のスタッフも含めて多くの人が参加してくれました。レクチャーとディベートの二部立てという新しい形式でのイベントでした。ディベートに参加してくれたスタッフからは「子宮頸がんワクチンの事を今まで全然知らなかったから、すごく勉強になった」「ディベートを初めてしたが面白かった。準備をしてくれてありがとう」「予防接種のシステムについてもよく学べた」という感想をいただきました。SCORAスタッフにとっても他の参加者にとっても、性感染症について知るきっかけとなる刺激的なイベントになったと感じています。 ③SCORAngelsの集い1日目「HIV/AIDS」(8月) HIV/AIDSの基礎的な話からHLP、ステージの話題まで、HIV/AIDSについて幅広く扱うレクチャーとレクチャーの復習を行うクイズ、「HIV検査を躊躇うパートナーに検査に行ってもらいたい」といいたい「いいえ」を考えるディスカッションを行いました。HIV/AIDSについて初めて知ったという人も、ある程度の知識はあったという人にも、楽しく学んでもらえるイベントとなりました。ディスカッションでは、HIV検査を躊躇っている理由として、2つのパターンを用意しました。1つは「もし陽性だったら、今までの生活が失われるので怖い」、もう1つは「周りは検査に行っていないのに検査に行くのは恥ずかしい」という内容でした。参加者からは難しかったけれども、身近にHIV検査について考えることのできるディスカッションだったという声をいただきました。また、HIV検査に行くことと宣言してくれた人もいました。このイベントを通して、参加者や運営スタッフから、「AIDS=死の病」「HIVの感染は自己責任」といった偏見が取り除かれたように感じました。 ④World AIDS Day SCORADIO(12月) HIV/AIDSをはじめとするその他感染症、性的同意など性交渉におけるお悩みや疑問について、事前に用意したフォームにて匿名での質問を募り、その質問に回答していく形のイベントを行いました。 性感染症についての質問の中には、「問性間に向けられるHIV/AIDSについての偏見がなぜ存在するか」「性感染症は遺伝病であるのか」「オーラルセックスではコンドームが必要なのか」といった質問があり、大学生は正しく性感染症について知ることのできる機会が少なく、不安に感じているのではないかと感じました。また、日常で性的同意を取る難しさについて悩んでいるという声が多く、性交渉の機会そのものが大学生の大きな悩みとなっており、性感染症予防を行うSafer Sexの考え方に加えて、性的同意の重要性について伝えていく必要性を感じました。 ⑤World AIDS Day SNS 作成者3名 いいね数のべ148(2022年4月10日時点) 12月1日のWorld AIDS Dayに合わせて、SCORA-Japan公式Instagramにて、「HIVとは？AIDSとは？(GENERAL)」 「HIV/AIDSに関する関連した迷いについて(MYTHS)」 「COVID-19と関連して(HIV AND COVID-19)」 の3つの内容を投稿しました。 昨年度のWorld AIDS Day Online CampaignでもHIV/AIDSがどのような病気であるかを投稿していましたが、今年度はそれに加え、COVID-19がHIV/AIDSの感染・罹患状況に与える影響について投稿しました。このSNS作成に関わったスタッフからは、「HIV/AIDSについて深く知ることができたのはもちろん、発信するために言葉でまとめることでしっかり知識として身につけることができた」という声をいただきました。 ⑥SCORA総会1日目 性感染症のまとめ/コンドームを付ける練習(3月) 年の締めくくりとして、HIV/AIDS・性器クラミジア感染症・梅毒・ヘルペスウイルス・淋菌・子宮頸がんの6つの性感染症に焦点を当て、潜伏期間や感染経路などの特徴をピントどりの性感染症を指しているか当ててゲーム形式で学ぶレクチャーを行いました。初めて行った形式であったため、ゲームが難しかったという声もありましたが、性感染症を多く学べたスタッフからは、高校での保健体育の教科書に載っていることをしっかりと覚えていたことで答えられたという感想をいただきました。教育で性感染症について学ぶことの重要性を、SCORA STI Prevention Projectから多くの性感染症の情報を社会へ発信し、高校生に向けたアプローチも視野に入れた活動をするを目標にすることができた良いと感じました。また、9人の参加者がコンドームと模型を用いて実際にコンドームを付ける練習をしました。画面越しであるものの、スタッフからは「初めてコンドームを触ったが、付けるのが思ったより難しかった」「正しい付け方が思ったより難しかったが、面白かった」という声をいただきました。これからはCOVID-19の影響が続くと考えられますが、オンラインでもできる限りの工夫をして、このようなワークショップが行えたいと思います。

活動の様子※別紙にも記載  
右の写真が③SCORAngelsの集い1日目「HIV/AIDS」(8月)の様子  
左の写真が⑥SCORA総会1日目 性感染症のまとめ/コンドームを付ける練習の様子

